

平成30年度 福島県全国がん登録説明会 ～登録のポイント～

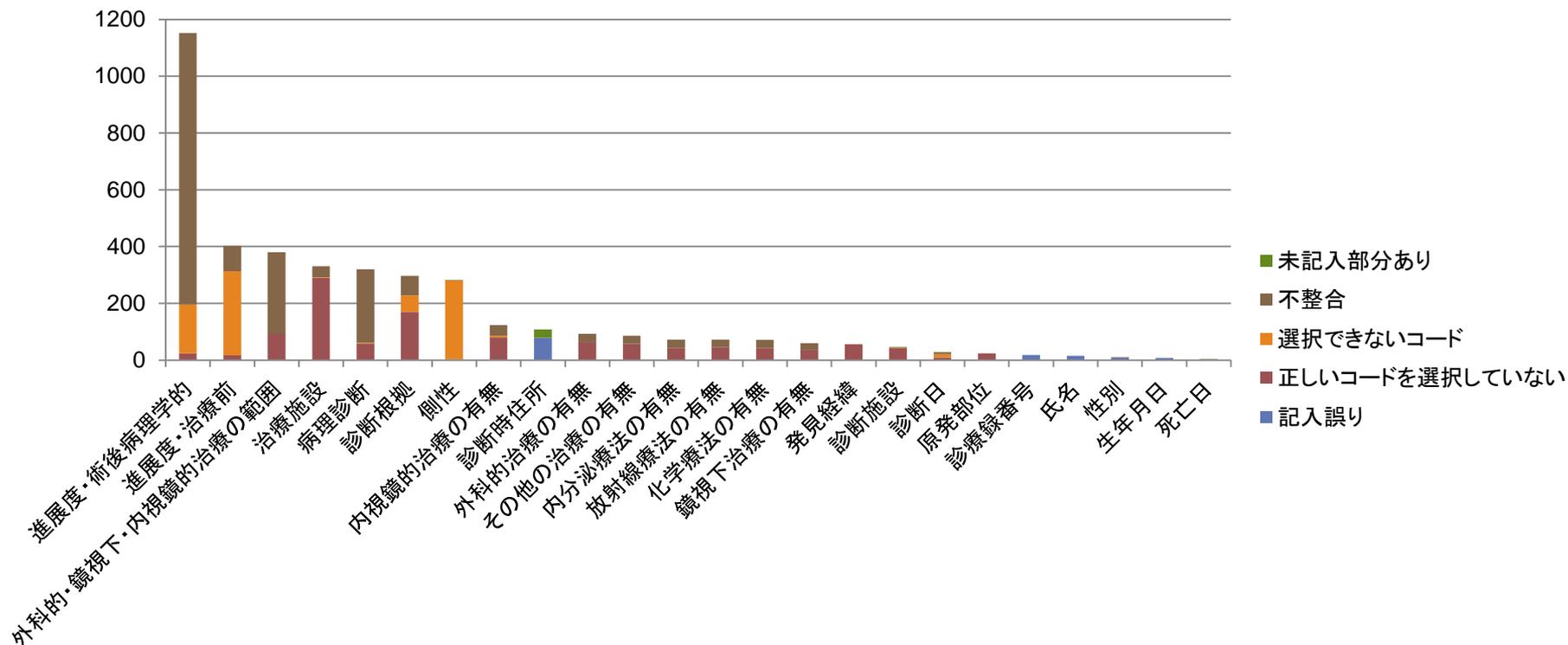
公立大学法人 福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター
がん登録室

2016年診断症例にみるエラーの傾向

●2016年診断分届出票：約21,000件

▶エラー数は約4000!!

全国がん登録 2016年診断分届出票 エラー数



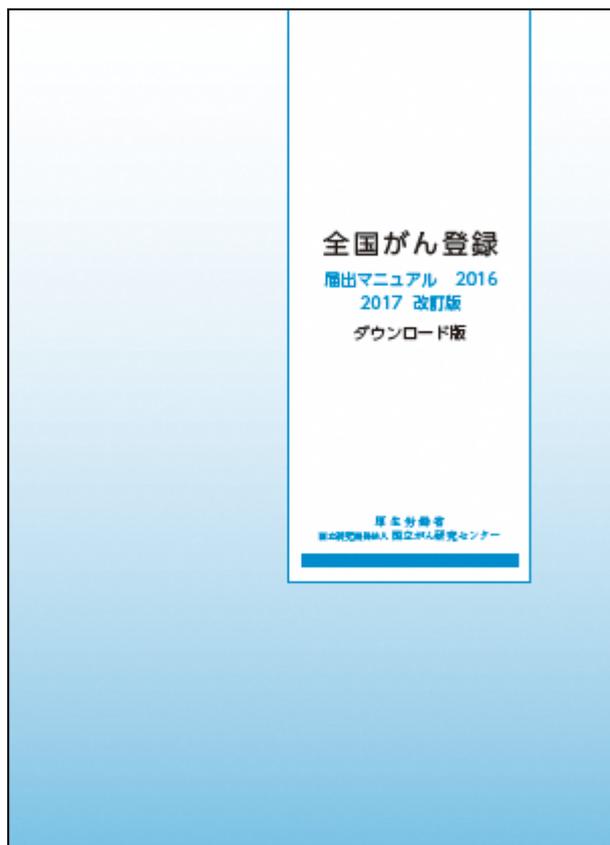
2016年診断症例にみるエラーの傾向

- ①⑦進展度・術後病理学的
- ①⑥進展度・治療前
- ②①外科的・鏡視下・内視鏡的治療の範囲
- ①②治療施設
- ①⑩病理診断・形態コード
- ①③診断根拠

この項目を正しく入力できれば
エラーは劇的に減少する!!

エラーの多い項目について

- マニュアルを確認する



- 2015年に医療機関へ配布済
- 現在、2017年改訂版が国がんホームページ上で公開
- 手元に無い場合はホームページから入手

URL

https://ganjoho.jp/reg_stat/can_reg/national/hospital/rep-manu.html

エラーの多い項目について

●進展度について

固形がんなど

0	上皮内	癌が発生した臓器の上皮内にのみ存在する
1	限局	がんが発生した臓器内にとどまっている
2	所属リンパ節転移	がんが所属リンパ節に転移している
3	隣接臓器浸潤	がんが隣接する臓器に直接浸潤している
4	遠隔転移	がんが遠隔臓器または遠隔リンパ節に転移している

悪性リンパ腫

1	限局	1つのリンパ節領域または一つのリンパ節外臓器
3	隣接臓器浸潤	限局と遠隔転移の定義を満たしていない
4	遠隔転移	リンパ節外臓器への侵襲または遠隔臓器・リンパ節への転移

エラーの多い項目について

●⑰進展度・術後病理学的

▶よくあるエラー

- 自施設で手術していないのに「660.手術なし・術前治療後」以外が選択されている
- 対象部位ではないのに「777.該当せず」が選択されている
- 形態コードは浸潤○○○○/3だが「400.上皮内」が選択されている（逆のパターンもあり）

エラーの多い項目について

- ⑰進展度・術後病理学的

- ▶ 自施設で手術をしていない
外科的・鏡視下・内視鏡的治療が
すべて「2.自施設で施行なし」

必ず「660.手術なし・術前治療後」を選択

他施設での治療情報は入力しない→備考欄へ記載

エラーの多い項目について

●⑰進展度・術後病理学的

▶術前に腫瘍の縮小を目的とした治療をした

必ず「660.手術なし・術前治療後」を選択

※この場合は必ず

放射線・化学療法・内分泌療法・その他の治療
いずれかが「1.自施設で施行」になる

※他施設で非観血的治療→自施設で手術

治療施設：3.初回治療継続

進展度：660.術前治療後 内容は備考欄へ

エラーの多い項目について

- ①⑥進展度・治療前 ①⑦進展度・術後病理学的

➤部位が「C42.0血液」「C42.1骨髄」
(大分類が「白血病、骨髄、血液」)

必ず「777.該当なし」を選択

※原発部位が「C42.0血液」「C42.1骨髄」
(大分類が「白血病、骨髄、血液」)以外は
進展度は「777.該当せず」は選択できない

エラーの多い項目について

- (手術していない場合)⑩進展度・治療前
- (手術した場合)⑪進展度・術後病理学的
 - ▶病理診断・形態コードが「上皮内〇〇〇〇/2」
必ず「400.上皮内」を選択
 - ▶病理診断・形態コードが「浸潤〇〇〇〇/3」
**「410」「420」「430」「440」「499」の
いずれかを選択**

※手術施行の有無で整合させる項目が異なるので注意する

エラーの多い項目について

- ⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

●⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

- ▶治療施設が「4.初回治療終了後」

進展度・治療前「499.不明」を選択

※前医での初回治療前の情報は取得するのが困難
⇒一律に「499.不明」を選択する（国がんの指導）

エラーの多い項目について

- ⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㉠㉡㉢㉣㉤㉥㉦㉧㉨㉩㉪㉫㉬㉭㉮㉯㉰㉱㉲㉳㉴㉵㉶㉷㉸㉹㉺㉻㉼㉽㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

- ▶部位が「原発部位不明 C80.9」

進展度・治療前「499.不明」を選択

※手術をしても原発不明だった場合は
進展度・術後病理学的「499.不明」を選択

エラーの多い項目について

●②①外科的・鏡視下・内視鏡的治療の範囲

▶よくあるエラー

- 自施設で手術していないのに「1.原発巣切除」「4.姑息的な観血的治療」が選択されている
- 初回治療をしていないのに「1.原発巣切除」「4.姑息的な観血的治療」が選択されている

エラーの多い項目について

- ⑳①外科的・鏡視下・内視鏡的治療の範囲

- ▶自施設で手術をしていない

外科的・鏡視下・内視鏡的治療が
すべて「2.自施設で施行なし」

必ず「6.観血的治療なし」を選択

他施設情報や緩和治療の内容は備考欄へ

エラーの多い項目について

- ②①外科的・鏡視下・内視鏡的治療の範囲
 - ▶進展度が「440.遠隔転移」で手術の結果、がんが残っていることが分かっている
(原発巣のみ切除・転移巣のみ切除・断端 (+) など)

必ず「4.姑息的な観血的治療」を選択

原発巣・転移巣ともにすべて取り切れた場合に
「1.原発巣切除」を選択

エラーの多い項目について

●⑬ 診断根拠

▶ よくあるエラー

- 選択できない部位での
「4.部位特異的腫瘍マーカー」
例) 部位：結腸
診断根拠：4.部位特異的腫瘍マーカー
例) 部位：前立腺
診断根拠：4.部位特異的腫瘍マーカー
- 部位が「原発不明」なのに
「1.原発巣の組織診」

エラーの多い項目について

●⑬診断根拠

▶「4.部位特異的腫瘍マーカー」を選択

病理診断が必ず

「肝細胞癌(AFP高値)」

「絨毛癌(HCG高値)」

「神経芽細胞腫(VMA高値)」

**「ワルデンストレームマクログロブリン血症
(免疫グロブリン高値)」**

他の腫瘍マーカーで診断した場合は「5.臨床検査」

エラーの多い項目について

●⑬ 診断根拠

- ▶ 組織診をおこなったが原発部位との診断が得られず「原発部位不明 C80.9」

「2. 転移巣の組織診」を選択

※原発部位が分からなければ原発巣の組織診にならない

エラーの多い項目について

- ⑩病理診断 ⑬診断根拠

- ▶よくあるエラー

- ・顕微鏡学的診断でなければ用いていけない組織型と診断根拠の組み合わせ

- 例) 組織型：腺癌8140/3

- 診断根拠：5.臨床検査

- 例) 組織型：上皮内癌8010/2

- 診断根拠：5.臨床検査

- 例) 組織型：扁平上皮癌8070/3

- 診断根拠：9.不明

エラーの多い項目について

●⑩病理診断 ⑬診断根拠

- ▶診断根拠が1・2の組織診、3の細胞診

すべての組織型が選択可能

- ▶診断根拠が4 .部位特異的腫瘍マーカー・
5 .臨床検査・6 .臨床診断・9 .不明

用いてよい形態コードは限られている

※医師が診断名としていても
根拠となった検査が違う場合は選択できない
マニュアル32ページ記載の組織診断名確認

届出票を作成する上での注意点

- 対象者の見つけ出し

- ▶初めての治療施設でなくとも届出対象

初回治療終了後の患者に注意

- ▶既往歴だけでは届出対象にならない

がんに関する診察・治療をしているか確認

- ▶来院したすべての患者が対象

外来のみで治療している患者に注意

届出票を作成する上での注意点

- 診断後に経過観察の方針となった場合

- ▶ 自施設で診断、何もせず紹介した

治療施設「1.初回治療せず」

- ▶ 自施設で診断、経過観察を開始した

治療施設「2.初回治療開始」

- ▶ 他施設で診断、経過観察の方針となり紹介された

治療施設「2.初回治療開始」

- ▶ 他施設で経過観察開始後に紹介された

治療施設「4.初回治療終了後」

届出票を作成する上での注意点

- 診断のみで他施設に紹介した場合
 - ▶ 返書等の内容は必要ない
 - ▶ 自施設で診断した内容だけを記載

紹介した時点で届出票作成

※紹介先名や紹介先の治療情報は備考欄へ

届出票を作成する上での注意点

- 治療前に亡くなった場合

- ▶ 診断に引き続き治療計画を立案した

治療施設「2.初回治療開始」

- ▶ 診断しただけで治療計画は立案できなかった

治療施設「1.初回治療せず」

届出票を作成する上での注意点

- 診断根拠となる検査

- ▶ 視診や触診など理学的診断のみ

診断根拠「6.臨床診断」

何らかの検査をしていれば「5.臨床検査」

- ▶ 血液検査で白血病や悪性リンパ腫と診断

診断根拠「3.細胞診」

届出票を作成する上での注意点

- その他の治療

- ▶ がんの縮小・切除が目的な治療
- ▶ 他の項目に分類できない治療
- ▶ 緩和治療は対象にならない

治療の内容を備考欄に記載

届出票を作成する上での注意点

●⑦診断時住所

- ▶ 自施設診断 = 自施設での診断時点での住所
- ▶ 他施設診断 = 自施設での初診時点の住所

**届出票を作成した医療機関で
診断日とした日に居住していた住所を記入**

※避難前住所や診断時～届出の間に転居した場合は
備考欄に記入する

届出票を作成する上での注意点

- 各項目での「不明」について

- ▶カルテを確認しても分からない場合

- ▶医師に確認しても分からない場合

・・・に使用する

**情報として価値のあるものにするためにも
安易に「不明」は使用しない**

届出票を作成する上での注意点

●備考欄の活用

- ▶ 紹介先・紹介元の施設名
- ▶ 住所の異動（避難先・避難元など）
- ▶ 部位や病理診断の詳細
- ▶ 治療の経過
- ▶ 他施設での死亡日

**備考欄に記載があれば当室で判断でき
問い合わせや修正も少なくできる**

チェックリストについて

- 全国がん登録届出票 作成時チェック項目
- 届出症例の見つけ出し(ケースファインディング)
- フローチャート
 - 届出対象について
 - 診断施設の選び方
 - 診断根拠が顕微鏡学的診断でない時に用いてよい組織型
 - 治療施設の選び方

届出票作成時にご活用ください!!

ご清聴ありがとうございました

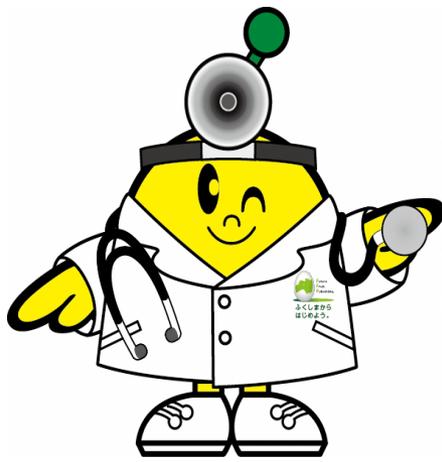
ご不明な点があれば

がん登録室へ

お気軽にお問い合わせください

TEL：024-547-1412(直通)

E-mail：fzenkoku@fmu.ac.jp



公立大学法人

福島県立医科大学

放射線医学県民健康管理センター